

Q6 状況に関係のない発言をする場合

<このような状態は自閉症の特性からきています。>

素直で明るいAちゃんですが、様々な場面で、自分の興味のある事柄についておしゃべりを始めてしまい、何度か声かけをしますが、なかなかおしゃべりを止めることができません。Aちゃんの場合は、耳にした単語からイメージが浮かんで、そこからおしゃべりが始まってしまうようです。

自閉症の子どもは、対人関係を作ることや言葉の使い方、会話の仕方が未熟な場合があります。また話してよい状況、いけない状況の判断が難しいことがあります。そのため、無理におしゃべりを止めたり強く叱ったりすると、パニックになってしまうこともあります。

<このような場合の支援 1>

小学校6年生の知的障害を伴う自閉症の男児。授業中学習に関係のないことを大声で話し、自分一人で満足して、話を止めることがなかなかできません。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 日頃からどのような場面で大声になるのか観察する。
- ② 大声で話し始めたら、身体の一部をさわって「おしまい」等の声をかけてみる。
- ③ 休み時間などに教師と話をする時間を作っておき、授業中の話は「休み時間に」と説明する。
- ④ 学習内容が子どもに合っていないため、つまらないというサインかもしれないので、時には別課題を行ってみる。

<このような場合の支援 2>

小学校年5生の高機能自閉症の男児。知的能力は高いのですが、状況判断が苦手で、自分の話したい1つの話題について長々と話すことがあります。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ⑤ 授業終了前の5分間や休み時間を「話をする時間」とし、可能な限り本人が満足して話せる時間を設定する。
- ⑥ 「〇〇君の研究」といったノートを学級の子ども全体に用意し、時間や場所を設定して各自の興味のあることを文章化させて、後から教師がそれを話題にすることも考えられる。
- ⑦ 場面にふさわしくない発言の場合は、その旨を伝える。
- ⑧ 適切な話題や、一人でしゃべりすぎないなどの話のルールを説明し、個別に話し方のスキル（技能）を教えていく。
- ⑨ 他の子どもには、本児の気持ちを伝え誤解されないようにする。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子